

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市観光審議会
- 2 開催日時 平成29年2月28日（火）午前10時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 茨城県三の丸庁舎 3階 会議室A
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 加藤 高藏, 西村 寛, 村田 進洋, 大橋 章, 林 太一, 関 洋一,
紺野 晴一, 楢崎 ひろ子, 鹿倉 よし江, 大関 茂, 渡辺 勝,
小川 啓子, 伊王野 求美, 矢島 敬子
 - (2) 執行機関 小田木産業経済部長, 小川産業経済部観光課長, 川俣観光課長補佐,
富岡観光課企画物産係長, 國見観光課主事
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 先導プロジェクトの進捗状況について（公開）
 - (2) インバウンド観光の推進について（公開）
 - (3) その他（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
水戸市観光審議会資料, 水戸市観光審議会委員名簿, 水戸市観光審議会条例,
水戸市附属機関の設置及び運営に関する指針, 水戸市附属機関の会議の公開に関する規程
水戸市観光基本計画（第3次）, 水戸市観光基本計画（第3次）概要版
- 9 発言の内容
別紙 会議録のとおり

1 開 会

2 挨拶

- ・執行機関より挨拶
- ・委員の委嘱及び会長、副会長の選出
- ・水戸市観光審議会 会長より挨拶
- ・諮問書の交付

3 議 事

(1) 先導プロジェクトの進捗状況について

執行機関 <観光審議会資料 P 1～3 及び観光基本計画（第 3 次）に沿って内容説明>

委 員 茨城国体や東京オリンピックの開催の影響による観光客数は、目標値に含まれているか。

執行機関 本基本計画策定時には開催が決定されていなかったため含まれていない。

委 員 東京オリンピックの開催や新市民会館の整備等は、本市に観光客を呼び込むチャンスである。また、自家用車ではなく、公共交通機関を利用して回遊してもらうことにより、経済波及効果が期待されることから、積極的な取組を民間主導でやっていく必要がある。

委 員 目標値の 4,500,000 人を達成すると茨城県内で観光客数は 1 位になるのか。

執行機関 現状値（県内 1 位の大洗町）と比較すると 1 位となる。ただし、広域的に連携していくことが重要と考えていることから、お互いに協力し合えるように取り組む。

委 員 他市事例も含め、いかにメディアに取り上げてもらうかが重要。話題性・情報の拡散により、本市の魅力が PR され、誘客へとつながる。

委 員 観光客数は増えているが、宿泊客数が減っていることについて、どのような理由が挙げられるのか。

委 員 震災直後は、震災復旧、復興の工事等により宿泊者が増えていた要因がある。その後、落ち着いてきたため、結果的に宿泊者が減ってしまったことが、原因の一つに挙げられる。

委 員 京都や東北において、観光客数が増えている要因の一つとして J R との連携が挙げられる。本市において、圏央道の全線開通を契機に、NEXCO 等と連携することもよいと考えられる。

委員 アクセスが良くなる反面、日帰りの観光客が増えるというデメリットも生まれてくるため、その対応が必要となる。

委員 夜のイベント等を行い、宿泊してもらうのも一つである。

委員 水戸のまちは夜に人が少ない。イベントも良いが、まずは、市民を中心に水戸の夜のまちを盛り上げる必要がある。そこに観光客が来れば、楽しんでいただくことができ、宿泊にもつながる。

委員 観光客の対応に慣れている観光地のお店では、おもてなしを感じることができるが、不慣れな地元のお店では、常連客とのつながりが強く、外部からのお客さんに対する対応が足りないと感じるため、おもてなしの講習等を行っていく必要がある。

委員 水戸の人はシャイ、商売下手と言われる。そういった市民性を理解した上で、おもてなしについて学んでもらう（モチベーションを上げるきっかけをつくる）必要がある。

委員 目標値におもてなしマイスターの認定数があるが、認定の数に捉われず、現場での対応の質についても重要視していただきたい。

(2) インバウンド観光の推進について

執行機関 <観光審議会資料P4～6に沿って内容説明>

委員 免税店の利用がなされていないと感じる。利用者は、増加傾向にあるものの、団体客の受入体制の構築が必要と考える。

委員 三の丸周辺地区は、大手門復元に向けた取組や白壁の整備も進み、観光のポイントとなり得る場所である。そこで、二の丸展示館等を利用して何か体験できるメニューが生まれればよいと考える。

委員 海外都市交流としては、飛虎將軍廟への視察、海尾朝皇宮管理委員会の来水等を通じ、台南市との交流が挙げられる。台湾と水戸をつなぐ一つのきっかけとなれば良い。また、東京オリンピックのタイミングでも、多くの台南市民（台湾人）を呼ぶことができれば、今後にもつながる。北関東連携事業等を通じて、観光ルートを創設し、誘客を図っていくべきである。

委員 PR（国内外を問わず）をするためにも、まずは市民のシビックプライドの醸成を図る必要がある。

委員 PRの手法として、webでの検索に引っかかることが重要である。そのためにも、動画サイトやブログ等を上手く活用し、情報を流す回数を増やす必要がある。より人の目につくようにすることが求められる。

委員 おもてなし会話集等を活用し、気軽に声かけのできる環境をつくっていくことが重要である。

委員 ターゲットを絞ることは重要だが、絞りすぎても逆効果となる。市内の留学生等に協力していただき、様々な国籍からの視点で水戸市を分析してもらうことも必要である。

委員 目標値の設定、進捗管理について、中間目標として、茨城国体や東京オリンピックの時点での目標を立てるとよい。そうすることで、最終目標に向けた指針が見える。

委員 体験型観光が求められており、地元の店舗、商店街と連携、協力しながら単なる体験型ではなく、ストーリーを付与することがポイントとなる。

委員 水戸には、歴史や景観だけではなく、優れた土産品や食べ物がある。今後納豆料理を提供する店舗の拡充を図るとともに、地元の土産品の魅力向上とPRに取り組んでいく必要がある。

(3) その他

会長 本日の意見をまとめ、答申を行う。内容は会長に一任いただく。

4 閉会